

有用藻類	35年生産子類藻	用 途
産 人 数	5,000戸位	島 内 販 売

種 類	産 出 期 間	魚 獲 量	備 考
イセエビ	1ヶ月~3ヶ月	1,000戸位	米人均販売

1956年6月7日 殼付及採取量(浜田地先)3個中均

規格	殻 径	殼付量	産出量	歩 留	備 考	備 考
大	8.7cm	90匁	1.2匁		よ 福 色	歩留利用価値なし
中	8.0cm	8匁	3.0匁	3.75	早 福 色	餌料高価少く度である
小	6.9cm	37匁	2.0匁	5.4	早 福 色	々

三 宜野座沿岸

1. 調査場所及び期間

場 所 宜野座村松田、前原地区地先

期 間 1956年6月7日~9日 3日間

調査方法 海中踏査及び漁民部落より聞き調査

2. 生産調査

種 別	産 出 期	年間生産高 及び 概 数	利用価値の違存	備 考
ツノマダ		概 少		
ミ ー ル	6 月 頃	約 20,000戸位	肥料として使用	主に大みるびみる類が多い。
ヒトエビ (ブーサ)	3 月 頃	概 少	餌料として使用	
ナ マ コ	5 月 ~ 6 月			利用者なく採取せず。
バフンウニ	7 月 ~ 9 月 頃	352年生産子 類高 180匁位	糖漬物、生半製品、 乾燥品として民間加 工業者に利用された	採取期を控え、海産物商仲本 氏により採獲準備中である。
玉貝・広瀬 高瀬貝	周 年	現在くり合一 隻で60戸程度	貝肉、自家用 貝殻片 25円	個人採花販売されている。
ヌ コ	周 年	現在くり合一 隻で12戸程度	販 売 用	

3. 調査地区内における水産加工業の有無

海産加工処理場 松田部落、前原、湯原

1951年 個人 武井氏、平良氏

1952年~3年 ヲ 奥平氏

1954年 個人 橋本氏

1956年 海産物商仲本氏

4. 調査経過

5に資源に就いて

同地区は毎年民間加工業者により明軟を受け「うに」の製造については詳しい様である。又原料うに類も金武東沿岸より久志村に亘り細長くリーフを有し外海に面した好棲息地を控え、採取漁場に近く有利な条件にある。現在迄の盛漁期における割舟一隻の採卵量は8月の最高1貫600匁を生産し将来有望な漁場であらう。原料殻割処理については各業者共略本邦の処理法に準じて行ひ、水切り処理、加工器具に対して筆者橋本氏の考案せしものは参考になった。

尚、其の方法については後日再調査を行ひ器具の改良に努力したい。

5. 結 び

部落は半農半漁の割舟業者が多く殆ど「エンゴン」を備え、漁業により小規模な漁業を営んでいる。特に婦人は「うに」の加工には熱心で村の共進会等に製品2、3種類を出品して優良賞を受け自信をもっているようであつた。

此の点についても家庭加工の育成面から協力したい。

調査略図及歩留表



規格	殻径	殻付産量	卵取産量	歩留	備 考
大	—	—	—	—	—
中	8.3cm	40匁	9.0匁	7.3	白白色精糖
小	6.9cm	17匁	5.5匁	6.5	黄色。糖卵殻